

# 音楽教育における WebCT の活用について

小林 田鶴子<sup>\*1</sup> 伊藤 充子<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup> <sup>\*2</sup>名古屋女子大学文学部児童教育学科

<sup>\*1</sup>kobayasi@nagoya-wu.ac.jp <sup>\*2</sup>itomitsu@nagoya-wu.ac.jp

## 1. はじめに

昨年度の本カンファレンスで、小林は「音楽科教員の情報に対する意識調査分析～富山県・東京都中学校音楽担当教員へのコンピュータ・ネットワークリテラシー意識調査の考察～」と題した共同研究を行い、音・音楽情報関連を取り扱う音楽科教員を対象に、コンピュータやネットワークの利用、マルチメディア教育の実施状況などについてのアンケート調査を実施した。その結果、回答データからは、コンピュータなどのメディアを使うことに対する拒否感は薄れてきているものの、実際に授業で活用することができていないことが伺えた。また、音楽を扱っている教員であるにも拘わらず、「プラグインなどを使って音の出るホームページの音を聞くことができない」といった否定的な報告が過半数を占めたことで、日常的にネットワークで音を扱う環境に音楽教員が置かれていないことが示された。こうした現状に対して、音楽の授業の中でネットワークが使える具体的な方法を提示することが重要だとされ、その例として音楽的スキルアップのための WBT (Web Based Training) の利用などを挙げた。

そこで、今年度は小林が在籍する名古屋女子大学文学部児童教育学科に於いて、音楽教育の場面で実際に音を使った e-Learning を取り入れることによって、将来教員を目指す学生に在学中にネットワークで音を扱うことに慣れると同時に、大学での学習内容の補完として講義の理解を深めるための可能性を探る試みとして、コースウェアを使ったコンテンツ作成を行った。

## 2. 音楽教育における音声を活用した e-Learning の現状

我が国の音楽教育では、音声を活用した e-Learning は小・中学校の WEB ページで部分的に含まれていたり、音楽教室で趣味として音楽を楽しむワンポイントレッスンで公開されていたりするが、体系的に作られているものは数が少なく、次に示すものが代表的であるといえる。

### ①小・中学生を対象としたもの

「オンライン音楽室」…平成 12 年度文部科学省教育用コンテンツ開発事業で作成されたもの。

<http://www.ongakushitsu.net/>

### ②音楽大学受験を目指したもの（主に高校生対象）

「OSS-MUSIC」…音大進学ゼミナール（東京）によって開発・運用されている。

<http://www.oss-music.com/index.htm>

### ③大学教育

音楽教育プログラム…武蔵野短期大学幼児教育学科の教員によって開発され、音楽理論の基本的な事柄を学ぶためのコンテンツとして先駆的なものであり、現在一般公開されている。

<http://www.bekkoame.ne.jp/~mfb/edu/index.html>

学習支援システム…大阪芸術大学通信教育部において運用されているもので、音楽専門教育での本格的なコンテンツである。

<http://www.cord.osaka-geidai.ac.jp/>

### 3. 本学での e-Learning の取り組み

本学での e-Learning のコースウェアは現在 WebCT が使われている。“WebCT (Web Course Tool)”とはカナダのブリティッシュコロンビア大学で開発された、高等教育を対象とした Web 上でのコース (授業) 管理システムであり、CMS(Course Management System)や WBT システムとして位置付けられる。現在は WEBCT 社によってシステムが提供されている。

システムには様々な機能があるが、主な機能とその流れは以下のようなものである

- <対面講義の復習> 講義資料の配布→内容の確認→オンラインテスト (理解度テスト)
- <対面講義の予習> 学習のためのガイド提供→講義各回のポイント提示
- <学習者へのフォロー> BBS 利用によるフォロー、学生同士のディスカッション

本学では、平成 15 年度より本格的に授業で活用されるようになった。しかし、そのコンテンツは文字・画像が中心である。現在学習効果を上げているコンテンツとしては、家政学部食物栄養学科の「管理栄養士国家試験対策講座」がある。

### 4. 音楽での実践内容

児童教育学科の 1 年で必修選択科目である「音楽演習 1」(児童教育学専攻)と「基礎技能 1 (音楽)」では、ピアノや弾き歌いのレッスンと共に、前期に学習する内容として音楽理論がある。伊藤、小林はこの授業を半分ずつ担当している。本学科は音楽専門家を養成する学科ではないため、学生はこうした理論は不得意科目に挙げられる。特に音程や音階の単元では理解不足が目立っている。

本研究ではこの授業の受講者に対して、授業で学んだ内容を示すコンテンツをアップし、それを学習した理解度チェックテストを行う。本システムの効果を測るため、授業受講者の中で WebCT を活用できる学生とそうでない学生を任意に作り (学生の自宅等のネットワーク状況で自然にケースが分かれるようにした)、ペーパーでの理解度テストと、WebCT 上での理解度テストの双方の結果を比較することにした。現在、(2005 年 6 月 14 日時点) まだ、WebCT 上でのテスト結果が出ていないが、ペーパー上で行った「音程」に関する理解度テストでは約 3 分の 1 の学生が十分に理解できていない結果となっている。こうした学生に理解度に応じたコースを学習させることによって、コースウェアの活用を考える。また、コンテンツそのものも、音を使うことによって直感的にわかるものを目指している。

\* 活用についての結果はポスターセッションに委ねるが、現段階でのコンテンツの一部を図 1 に示す。

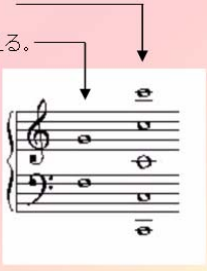
【図 1. 講義資料のコンテンツ】

## 楽譜の基礎知識

<テキストP.14~16>

- ・ 中央のドを中心として、ドの位置を大譜表で覚える。
- ・ ト音記号、ヘ音記号の意味とト音、ヘ音の場所を覚える。

スピーカーアイコンをクリックすると  
右の楽譜の一番低いドから順番に音が  
鳴ります。



<テキストP.17~18>

- ・ (P.17のテノール記号、ソプラノ記号は省略)
- ・ P.17、18のオクターブ記号で音の場所を覚える。

### 【参考文献】

- 『ピアノ・テクニックの基本』  
Peter Coraggio、坂本暁美、坂本示洋：訳、音楽之友社、2004
  - 『わかりやすい楽典』川辺真、音楽之友社、2002
  - 『基礎楽典』菊本哲也、全音楽譜出版社、1978
- 追記：本研究は名古屋女子大学総合科学研究所平成 17 年度機関研究助成を得て実施されている。